

## ふるさと三田の歴史と文化財 ～5月の年中行事～

三田市文化スポーツ課  
文化財担当

### 1 はじめに

5月は皐月（さつき）とよばれますが、これは“耕作”を意味する古語「さ」や、神様に稲をささげ、早苗を植える時期「早苗月（さなえづき）」が語源とされています。

年中行事や伝統行事は、全国的に共通するものだけでなく、地域によって独特なものや古い時代の伝統や風習が受け継がれているものがあります。

みなさんの生まれ育った5月の行事はどのようなものであったかを思い出していただき、懐かしむ機会にさせていただきたいと思います。

### 2 三田の端午の節供

宵節供（前日の晩）は何をされますか・・・

菖蒲を飾る場所はどこでしょうか・・・

節句当日の朝は何をされますか・・・

供え物、行事の食べ物はなんでしょうか・・・

柏餅を包む葉はなんでしょうか・・・

菖蒲はどのように使われますか・・・

節句の人形飾りはなんでしょうか・・・

### 3 田植えの行事

三田の田植え・・・5月末～6月中旬ごろに行う

地域によって決められた日がある（大安の日など）

田植えは半夏生までに済ませる（ハゲ半作）

稲の種をまく日や田植えの初めと終わりの日には、田や神棚に供え物をしたり、行事食を食べる・・・稲の健やかな成長と豊作を願う行事

### 4 花施餓鬼（5月8日）

先祖を迎える仏事としての性格が強い行事（釈迦の誕生日、花祭りの日）

先祖の墓参りに行く

寺に参り、法要を営む（新仏の出た家）

オヅキヨウカ（4月8日）

4月は「卯月（ウズキ）」ですが、三田では「オヅキ」と呼ばれ、ひと月遅れの5月8日に行うところが多い。

門前や井戸端に供え物をし、祖先の霊を家に迎える。

三田では墓参りは盆とオヅキヨウカが重視される。

### 5 端午の節句

節供のいわれ

端午（たんご）・・・月の始めの午（うま）の日

薬草を摘んで野遊びをする「菖蒲の節句」

宮中の儀式「端午の節会（せちえ）」

邪気を祓うとされていた菖蒲の葉と薬玉（菖蒲や蓬の茎や葉で玉を編み、花や五色の糸で飾ったもの）が天皇に献上され、薬玉は参加者に下賜された。参加者は菖蒲の葉で作った髪飾り（鬘 かずら）を冠につけて参加した。

幕府の年中行事（江戸時代）

“菖蒲”が“尚武”と同じ音で結びつく、菖蒲の葉の形が刀に似ている等の理由から。

「こどもの日」制定（昭和 23 年）

「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」

## 6 まとめ

三田の年中行事は、現在ではあまり見ることのなくなった昔懐かしく貴重な伝統や風習を今に残し、伝えているものです。

皆さんの懐かしい記憶を思い出し、思い出を語り合いながら、ふるさとの大切な伝統や風習を守り伝えていく機会としていただきたいと思います。

（参考文献）

『三田市史』第九卷民俗編 三田市発行 2004.03.31

『さんだ風土記 I～VI・別冊』三田市教育委員会発行 1999.10.09